





木造在来工法で知人の大工、宮崎さんが施工したスバルの基地となっているTさんのガレージ。竣工から9年が経過しているが、楽しいガレージライフを送る。

09

GARAGE LIFE EXAMPLE

スバルに惚れて 乗り続けて30年。 スバル党が目指した 秘密基地。

三重県 T 邸

スバルに乗り続けて30年。
スバルのとがったボクサーエンジンに取りつかれ、
スバルのWRCにおける活躍に夢中になってから
さらに深くクルマの楽しみを知る。
クルマで知り合った仲間たちを大切にしながら
ガレージのある生活を謳歌して今、楽しんでいる。

Photo/Keigo-KIMURA(木村圭吾)
Text/Jun-ISHIHARA(石原 淳)

自分で輸入して組み立てた2柱式リフトは
Dannmar Equipment製Maxjax。稼働
式で設置する油圧式のリフトは家庭用の
100V電源で稼働し、最大1143mmまで
上昇させることが可能。



電動シャッターを開けると鮮やかなアストラルイエローボディの限定車・スバルインプレッサWRX STiが出迎えてくれる。ガレージには2台のクルマが格納できる。床に施工した塗料は日本ペイントが販売している床専用塗料、クリンカラーEベスト。カラーはカナディアングレー。プライマーを塗って、その後上塗りも含めて4日間でDIYを実施。



書籍を保管する棚の前に設置してとても便利なのがアップダウンさせるデスク。通信販売で購入し、組み立てにわずか1時間。64cmから92.2cmまで天板を動かすことができる。Stiのシートを使ったオフィスチェアも自作。



09

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF Mr.T

躯体は知り合いの工務店に依頼。
稼働式リフトがポイント。



ガレージでチェックするのは主にオイル交換や足まわりのチェック。あらかじめセラミック製アンカーを埋め込み、Summitで輸入したリフトを導入して110cmまでクルマを上昇させることが可能になった。



『NEEZ』でオーダーし富山のホイールメーカー「鍛栄社」で製造され購入した鍛造マグネシウムワンピースホイールSEK18インチを履く、現在の愛車スバル・インプレッサ・WRX STI spec C type RA-R。アストラルイエローを纏うクルマは50台しか生産されていないとか。

今回、訪問させていただいたのは三重県の鈴鹿市でガレージライフを楽しんでいるTさん。アールエーアール鈴鹿というWEBサイト(<http://ra-r-suzuka.com/>)を運営している根っからのスバル党ということでワクワクしながら指定されたガレージに伺った。2012年10月に竣工したという木造在来工法のガレージのシャッターを開けると希少車・アストラルイエローのスバル・インプレッサが姿を見せた。

アストラルイエローボディの2006年型インプレッサ・WRX STI spec C type RA-Rは生産台数300台限定で製造されたモデル。同じカラーのモデルは50台が出荷、Tさんは新車で購入して維持をしながら

カスタマイズしてきた愛車。カスタマイズのポリシーは車検が通ることをモットーとし、市販されているパーツから、ワンオフパーツまで工夫しながら世界に1台しかないクルマとしてドライブを楽しむことにしているそうだ。

それまではカーポートで保管してメンテナンスしていた愛車も、ガレージを建てると整備およびチューニングの作業効率上がることから2012年に、実家が建っていた約500㎡の区画に建っていた4棟の旧家を取り壊し甥の家を建てるタイミングで念願のガレージ建築を決意したとのこと。知人の大工さん、宮崎さんに依頼して木造在来工法で建築することに。'12年7月にガレージを建築するため敷地の整

理からスタート。9月に大工さんによりガレージの建築がスタート。外壁はトタンにより仕上げてもらいガレージにはリフトを入れたいなどTさんの希望を伝えている。「本当はもっと簡単なものでもよかったのですが、違法建築というわけにもいかずしっかりしたものになりました」とはTさん。建築の様子はTさんが運営しているHPにて記録が残っているので細かく見ることができる。

9月20日からガレージの建築がスタートして10月3日に電動シャッター『文化シャッター』製軽量ワイドシャッター・モートWを設置してガレージ工事は終えている。その後、ガレージ前のアプローチの打設。そ

09

GARAGE LIFE EXAMPLE
A RESIDENCE OF Mr.T

PLANNING DATA & MATERIALS

木製の壁面にはお宝を展示。
魔法の箱には工夫がいっぱい。

Tさんの友人たちが来客したときに活躍するのが談話コーナー。モニターを設置して友人たちとWRCクラブ員に配布されたビデオを見ながら、友人たちとクルマ談義で盛り上がることも多い。ラリーファンとして35年、スバルを愛して30年というTさんは、スバル・レオーネ、スバル・レガシーを乗り継ぎ現在の愛車に。クルマのイベントに参加するほか、趣味として熱帯魚などにも情熱を注ぐ。



上ノ Garage は安全を考慮して、あまり大きな窓を設置したくないところ。そこでTさんの発案によりポリカーボネートの透明な波板を用いて明かりが入るように設計。下ノ Garage シャッターは『文化シャッター』製軽量シャッター・モードWを採用。シャッターのサイズに合わせて間口を設計しているのでサイズはぴったり。

その後、10月21日に購入していた日本ペイント製の床専用塗料・2液型エポキシ塗料クリンカラーベストをTさんがローラーを使って自分で施工。Garageにはクルマの整備のためリフトを入れることを決めていた。国内のリフト屋さんには希望のリフトの在庫がなかったためアメリカの販売店から購入して個人輸入している。あらかじめアンカーを埋めておいたスペースに11月25日に自ら説明書を見ながらリフトも組み立てた。このリフトは移動して、使用するときだけ設置するタイプ。30分ほどで組み立てて、埋めたアンカーにボルトでリフト支柱台座を留めて使用する。

その後、数年にわたりGarageには必要な作業台や棚の設置したり、今までコレクションしていた非売品のポスターを額装して掲示したりと木製Garageだけに、DIYにて作業するなど時間が許す限りGarageを活用している。当然、クルマのオイル交換も行ない竣工後8年以上が経過しているがじつに快

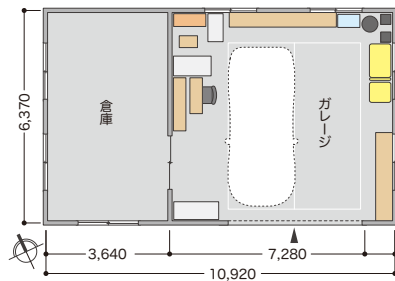
適という。最近ではラリーイベント全日本ラリー選手権「新城ラリー」のサポートをしたり、イベントの参加なども楽しんでいるほか「みんカラ」で知り合った友人たちがGarageを訪問するなどスバルを所有したことで広がった仲間の輪を大切にしているとのこと。

Garageの主、Tさんいわく「自分に限られた条件のなかでも諦めずに最後まで精いっぱい楽しくやり、アイデアや工夫を積み重ねていくことで夢を実現することはできる」と、これからGarageを建てる人の参考になればとエールを送る。明かりをGarageに入れるために採用したポリカーボネイトや拡張がしやすい無垢のコンパネのまま残したGarage内などTさんのアイデアも活かされた。今後はこのGarageで、ひとめぼれをして購入したインプレッサ・WRX STi C type RA-Rの整備を楽しみたいと語る。クルマを整備するために建てたGarageには、クルマを触る人にとっては必需品が揃った魔法の箱といえる。



P PLANNING DATA

施主 ● Tさん
 構造 ● 木造在来構法
 外壁仕上げ ● トタン板張り(一部ポリカーボネート貼り)
 内装仕上げ ● コンパネ張り(一部石膏ボード剥き出し)
 敷地面積 ● 262.53㎡
 延床面積 ● 69.56㎡
 ガレージ面積 ● 46.37㎡
 愛機 ● 2006年式スバル・インプレッサWRX STi spec C Type RA-R
 2008年式スバル・R2 Refi Bitter Selection



1 / 非売品のポスターたちはTさんが苦心して入手したものばかり。名古屋の日本パネルに依頼して特注オーダーのアルミフレームで額装された。
 2 / 額装されたWRCのポスターに、BILSTEINの希少なステッカー。額装することでホコリを帯びることもなくディスプレイが可能。
 3 / コレクションしてきたラリードライバーのサインが入った貴重なものや、ドライバーと撮影した写真などがディスプレイされる。1997年モンテカルロデビューウインしたピエロやボンスなどのサインもある。
 4 / ビバダムのピンズを集めるのが最近のコレクション。じつはこの額に貼られている真鍮のネームプレートのエッチングはTさんが自分で製作したもの。

O OWNER'S CHECK

■一番気に入っているところは？
 ポリカの窓にしたことでガレージ内が明るくなったことや、計画通りセラミック製アンカーの基礎コンクリートへの埋め込みをしたことでリフトを設置して使用できること。
 ■ちょっと失敗したところは？
 特にありません。
 ■次の夢はなんですか？
 スバル愛があふれる自分のHPサイト、<http://ra-r-suzuka.com/>を充実させていきたいですね。

FACOM製CKSパネルフックシステムを利用して工具を保管。すぐに使う工具はTOOL BOXに入れず、壁面保管。工具はKTC製を愛用。



リフトをしっかり支えるのは10cmほど施工時に埋め込んだセラミック製のアンカー。このアンカーにリフト支柱を固定して使用する。リフトの支柱がないことで普段はフロアスペースをフルに有効活用。

